



# 軽防協ニュース速報（号外）

2015年6月23日

軽種馬防疫協議会 事務局

（JRA 馬事部防疫課）

## 大韓民国における馬伝染性子宮炎の発生について

2015年6月19日、大韓民国農林畜産食品部は、済州特別自治道の5地域7牧場で飼養されていた17頭の馬において、馬伝染性子宮炎の原因菌である *Taylorella equigenitalis* の不顕性感染が認められたと報告した。大韓民国で馬伝染性子宮炎の発生が確認されたのは初めてである。確定診断は、2015年5月7日、農林畜産検疫本部（国立研究所）によるPCR検査によってなされた。

現在も獣医当局による疫学調査が続けられており、防疫対策として感染馬の隔離と治療、スクリーニング検査、消毒および国内における移動制限等の措置がとられている。

馬伝染性子宮炎は、伝染力の強い馬の細菌性生殖器感染症で、牝馬では子宮内膜炎や膣炎などを起こし、受胎率低下の原因となる。一般的に不顕性感染の牝馬や種牡馬が感染源となり、交配によって感染が拡大するが、人や器具を介して伝播することもある。感染馬の多くは自然に、あるいは化学療法によって治癒する。一部の馬は保菌し続け感染源となることから、伝播を防止するためには感染馬の正確な診断や治療が重要となる。

国内では1980年に北海道で大規模な流行が確認され、その後様々な防疫対策が行われた結果、2006年以降の発生はなく、現在は清浄化が確認されている。

### 【参考】

<http://www.aht.org.uk/cms-display/international-breeders-meeting.html>

軽種馬防疫協議会